

令和3年度 第2回 三島市介護予防・生活支援体制整備推進協議会 議事録

1 開催日時

令和4年3月8日(火) 13:30~14:30

2 開催場所

三島市役所 本館3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員

増田委員(座長)、近藤委員、秋津委員、吉岡委員、亀田委員、鈴木委員、木暮委員、伊藤委員、清水委員、梅原委員、野口委員(第2層生活支援コーディネーター)

欠席: 杉山委員、齊藤委員、笠原委員

(2) アドバイザー

<環境市民部 地域協働・安全課>

小糸主幹

(3) 事務局

<健康推進部>

池田部長

<健康推進部 地域包括ケア推進課>

佐野課長、原係長、武藤主査、細谷第1層生活支援コーディネーター

4 会議の公開・非公開

公開

5 傍聴人

0人

6 会議の内容

(1) 健康推進部長挨拶

(2) 座長挨拶

(3) 議題

ア 令和3年度地域支え合い会議の報告について

【事務局説明】

地域支え合い会議の簡単な趣旨説明の後、第2層生活支援コーディネーターから第2回目までの会議内容について説明いただいた。

(第2層生活支援コーディネーター)

地域支え合い会議では、地域の課題を共有し解決に向けて話し合い、参加者から出していただいた

アイデアをもとに担い手の発掘や育成、活動に繋げ解決に導くための会議である。昨年度は、「地域の見守り、声掛けについて行う組織の立ち上げに向けて」及び「定年退職を迎えた方の社会参加」をテーマに会議を行い、その結果、「新たに組織を立ち上げるのではなく、既にある居場所・サロンでその機能を担えるのではないか」という結論がでた。そこで今年度は、居場所の機能を増やすために、第1回は「居場所・サロンにあったらいいなと思う機能」、第2回は、1回目の意見である18の機能のうちから選び、「機能を追加するために必要なもの」について話し合いを行った。(18の機能についてもそれぞれ簡単に説明) その結果、比較的簡単に追加できる機能と住民主体では難しく支援が必要な機能があることがわかった。今後は、支援が必要なものについての使える制度や資源の一覧作成や機能追加のための支援方法を考えて行きたい。委員の皆様には、必要な機能に関することや支援できることなどを御意見いただきたい。

また、今月開催の3回目については、地域ケア個別会議で出た課題から「高齢者のペット問題」をテーマにする予定である。これは、高齢者相談でもよくあがる問題であり、まず、地域の皆様に実態を知っていただくために開催することにした。

#### 【質疑・応答】

(委員)

「移動スーパー受入れ機能」を三島市でやっているところはあるのか。

(第2層生活支援コーディネーター)

光ケ丘の周辺であったと思う。ただ移動スーパーに関してはどうしても物価が高くなってしまふとの問題があり、このあたりも調査していきたい。

(委員)

居場所・サロンの活動場所について、公民館以外の場所を使っている事例はあるか。

(第2層生活支援コーディネーター)

屋外の広場や代表者が所有している物件を利用しているところがある。

(委員)

コロナ禍になってから屋内だと人が集まらないので、屋外の開催を考えた。私の地区には、公園が3つあるので、それを利用して、体操を行ったり、地域花壇の登録をして花を植えたりして、人が集まっている。町内会の行事もなくなっているので、役員決めも公園の整備をしながら行っている。今後の居場所では、屋外の利用も積極的に考えていけたらよいのではないか。

(第2層生活支援コーディネーター)

「園芸菜園機能」もそうだが、屋外であれば、管理者がいなくてもいつでも利用でき、時間制限がなくなるのもよいことだと思う。

(委員)

北上の地域支え合い会議で、居場所の代表者をしている方から末広山に土地を借りて野菜菜園に行っていると聞き、一緒に活動したいと話している。北上地区では、既に多くの機能をもった居場所が沢山あるが、やはりコロナ禍で出来ることが限るので、屋外で色々なことに挑戦していきたいと考えている。

(第2層生活支援コーディネーター)

屋外での活動で、ますます居場所の機能が増えていくのを期待している。例えば、「動物との交流機能」も屋外であれば、実施しやすいと思う。

#### イ 錦が丘買い物支援プロジェクトについて

##### 【事務局説明】

本プロジェクトは、地域支え合い会議であがった課題に対して、様々な団体の協力により、実施しているモデル事業であり、10月には県の「壮年熟期が活躍するいきいき長寿社会づくり事業」を活用した「三島市高齢者の移動・外出支援セミナー」で取組みの紹介も行った。錦が丘買い物支援プロジェクトの実施状況について、第2層生活支援コーディネーターから説明いただいた。

(第2層生活支援コーディネーター)

現在、登録者は8名で、利用者からは感謝の声をいただいている。ただ、利用者の中でも本当に買い物に大変なのは2名ぐらいであり、それ以外の方からは、この取組を通じて参加者同士が仲良くなったことがとても良かったとの意見をいただいている。また、高校生ボランティアが重い荷物などを運ぶ支援についても好評をいただいている。

次年度以降は、同じ方法での継続が難しい中、地域住民の力で継続するために社会福祉協議会で車両をリースし、地域の運転ボランティアによる方法を提案したが、現状、ボランティアの確保が出来ず、難しいとの結論に至った。ただ、4月からコミュニティバスの運行が開始し、商業施設を回るルートも加わることから、これを利用し、重い荷物を運ぶなどボランティアを検討していきたい。(アドバイザー)

コロナ禍でバスの経営が非常に厳しい現状の中、東大場、錦が丘、パサディナの3町内会とバス事業者、タクシー事業者、三島市で検討を続けた結果、4月から市で運行するコミュニティバス「花のまち号」が開始することとなった。これによって、平日の朝晩を除き、ジャンボタクシーで錦が丘、東大場、パサディナと回り、函南ではあるがスーパーや金融機関も回ることが可能となった。

市としては、走らせる以上、乗っていただかないとその意味がないので、地域の活動などで積極的に使っていただきたい。

##### 【質疑・応答】

特になし

#### ウ その他

##### 【事務局説明】

来年度実施予定のLINEを活用した高齢者支援のシステムを紹介し、リリースされた際には委員の皆様にお使いいただくとともに周りにも周知して欲しいとお願いした。

##### 【質疑・応答、その他意見】

特になし

#### (4) 事務連絡